

彦根市の備え（公助）

避難所を開設します

大きな災害が発生した場合には、避難所派遣職員がすぐに駆けつけ避難場所などを開設します。災害が発生したときにあるところの最寄りの避難場所など、自

宅がある学区以外の避難場所などにも避難できます。

彦根市公式 LINE では現在地から最も近い避難場所などを探すことができます（ページ下部の QR コード）。

こんな備蓄があります

施設によって異なりますが、アルファ化米やクラッカーなどの食料品、飲料水、仮設トイレ、毛布などを避難者に支給できるように準備しています。



▲備蓄品の例



▲彦根市備蓄品データ

災害時応援協定を結んでいます

災害発生時に必要となる物資や情報、人的支援などを確保できるよう、官公庁 6 件、民間 62 件の災害支援に関する協定を締結し、

市民の生命や財産を保護するための協力を得ています。

民間企業との協力でこんな支援が受けられます



水・食料品・寝具・衣料・日用品などを協定先の店舗や工場の流通在庫から優先して提供してもらう協定



電気・水道・ガスのインフラの早期復旧のための協定

県内外の自治体と相互に支援し合う協定

電気自動車や電池による電源の供給、浄水装置による生活用水の供給、避難施設の提供など生活に関わる協定



▲協定先

災害情報を発信しています

テレビやラジオはもちろん、その他さまざまな媒体で情報発信を行っています。災害時の情報収集に役立ちます。有事に複数の媒体で情報が受け取れるように、登録をお願いします。



▲メール配信システム



▲彦根市防災 X アカウント



▲Yahoo! 防災速報



▲彦根市公式 LINE

災害への備え

知ってほしい

今からでもできること（自助）

避難場所などを確認しましょう

いざという時にすぐ動けるように、避難経路や避難場所などを今一度確認しておきましょう。災害は、自宅にいる時以外に発生するかもしれません。通勤・通学先や、帰省先や旅行先でもいつ災害が発生してもすみやかに避難できるよう、出かけた先で避難できる場所もあらかじめ確認しておきましょう。



◀避難場所などについて

非常持ち出し袋を用意しましょう

避難所の備蓄には限りがあります。避難しなければならない時のために必要最低限のものをリュックに入れ、すぐに持ち出せる場所に用意しましょう。また、自分で持ち運べる重さか確認しておきましょう。

非常持ち出し袋のほかに、最低3日間（できれば7日間）過ごすことができる備蓄品の用意も行いましょう。

チェックリスト

貴重品

- 現金（小銭含む）
- 印鑑
- 預貯金通帳
- 免許証、保険証

食料品

- 飲料水
- 非常食（アルファ化米など）
- 粉ミルク、ほ乳瓶
- ベビーフード
- 介護食、アレルギー対応食など

衣類

- 下着類、上着
- タオル、軍手
- 雨具
- おむつ

小物

- 懐中電灯、ヘッドライト
- 携帯ラジオ、予備電池
- 歯ブラシ、口腔ケア用品
- 携帯トイレ
- 筆記用具
- 折りたたみナイフ、缶切り
- 眼鏡、コンタクトレンズ
- 感染症対策用品

医薬品

- 常備薬、持病の薬
- 救急セット



能登半島地震では、断水したことにより、トイレが使えなくなる問題が発生しています。1人1日5回を最低3日分（できれば7日分）を目安にトイレ処理袋と、**トイレレットペーパーやウェットティッシュ**もあわせて用意しましょう。

災害に備える

フェーズフリー・ローリングストック

日常時と非常時に分けることなく、日常的に使用するものを災害時などにも役立つ「**フェーズフリー**」や、食料品や飲料水などを少し多めに買って置き、古いものから順に消費しながら一定量を備蓄し続ける「**ローリングストック**」を生活に取り入れ、日常的に非常時に備えましょう。

防災マニュアル

彦根市防災マニュアルでは地震をはじめ、さまざまな災害発生時の被害予想や、詳しい防災情報などがまとめられています。ホームページ（QRコード）でも確認できます。

地域とのつながり（共助）

大規模災害では公助にも限界があります。そのため、日頃から「もしも災害が起きたら…」と想定し、自助以外でも地域の防災訓練に参加するなど、地域のつながりを強化し（**共助**）、災害に備えることが大切です。

